

資産の総合評価の流れと評価結果の活用について

- ・資産の総合評価では、データ評価・総合評価の2段階で対象施設を評価します。
- ・評価結果は、公表するとともに、評価結果に基づく取り組みを実施します。また、評価の中で見えた課題についても、検討を行います。

1 データ評価

定量的なデータから施設を評価。指標ごとにベンチマークを設定し、課題あり施設を抽出。

2 総合評価

データ評価で課題ありとなった施設に対し、下記4項目について分析・検討。  
その結果をもとに、総合的な評価を行う。

3 評価結果の活用

評価結果を公表。  
評価結果に基づく取り組みを実施。

抽出	
評価指標	ベンチマーク(H25年度の例)
建物性能	・残耐用年数15年以下 ・耐震性能不足
利用度	・稼働率又は面積当たり利用者数が5段階評価で2以下(グループ内相対評価) ・稼働率が40%未満
運営コスト	・面積当たり運営コストが5段階評価で2以下(グループ内相対評価)

課題あり施設を分析・検討

分析・検討	
<div>■ データ評価結果についての考察</div> <div>データ評価結果について考察。</div>	<div>■ 利用実績の検証と現用途の需要見通しの検討</div> <div>利用状況を中心に詳細な分析を行う。 また、利用者層や人口動態等から、将来の需要見通しについて検討。</div>
<div>■ 再配置パターンの検討</div> <div>周辺に位置する公共施設について、施設機能や利用状況などから再配置パターンを検討。</div>	<div>■ 資産の活用ポテンシャルの検討</div> <div>資産の立地特性を踏まえ、公共・民間それぞれの活用ポテンシャルを検討。</div>

各分析結果から総合的に評価

評価		
(1) 評価結果		
分析・検討結果をもとに、総合的な評価を行う。		
対象	評価結果	方向性
次年度に見直しに着手する施設	見直し	①集約化 ②複合化 ③民間施設の活用 ④類似機能の統合 ⑤実施主体の変更 ⑥PPPの推進 ⑦サービス提供方法の変更 ⑧貸付・売却等 ⑨その他
現時点では利用を継続するものの、将来的には見直しすべき施設	継続利用	⑩当面継続
周辺施設の状況、利用状況、規模、立地等から将来に亘り利用すべき施設	継続利用	⑪継続(計画的保全対象)
(2) 課題 (対象施設又は施設グループ全体)		
評価結果には直結しないが、分析・検討を行う中で見えた、施設利用の効率性向上のために検討すべき主にソフト面の課題について示す。 【課題の例:受益者負担の適正化】		

評価結果の活用

取り組み
(1) 評価結果
・評価結果は、市ホームページ等で公表。
・評価結果に基づく取り組みを実施。
見直しとなった施設
利用調整の実施(施設所管課・資産経営課連携)
継続利用(当面継続)となった施設
利用状況等に留意しながら継続。今後、大規模改修や建替え等の段階で見直しを検討。
継続利用(計画的保全対象)となった施設
利用を継続。重要性、緊急性から保全の優先度を判断。計画的な保全に努める。
・評価結果や今後の利用状況等は、資産データベースに継続的に蓄積し、見直しの検討において活用。
(2) 課題
・主にソフト面の課題であることから、事務事業評価等を活用し、施設所管課を中心に検討を行う。